

(様式1)

令和2年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
富山県立山カルデラ砂防博物館 砂防課

2 施設所在地
中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68

3 施設設置年度
平成10 年度

4 設置目的
常願寺川の源流部にある火山活動と侵食作用によって形成された立山カルデラの峻厳な自然及び県土の保全のため行われてきた砂防事業を紹介し、災害を克服してきた人間の努力と英知について県民の理解を深めることを目的とする。

5 施設概要
延床面積 2,217.42㎡ 建築面積 1,984.6㎡
主な施設
エントランスホール 約250㎡
立山カルデラ展示室 約468㎡
大型映像ホール 約213㎡
企画展示室 約60㎡
図書室 約83㎡

6 指定管理者
公益財団法人 立山カルデラ砂防博物館

7 指定期間
5 年
平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日

8 利用者数及び利用(使用)料金収入の状況

(1) 利用者数(人) ※この他、参考となる指標があれば追加

H28	H29	H30	R1	R2
42,755	42,546	48,965	52,075	18,191

(2) 利用(使用)料金収入(千円)

H28	H29	H30	R1	R2
1,516	1,577	1,397	1,232	677

【参考】 利用料金収入見込み額 (利用料金制導入施設の場合)

H28	H29	H30	R1	R2
—	—	—	—	—

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

利用者数・収入の確保のため、学校・観光業者・町等、関係機関と連携を図るとともに、マスコミ等への情報提供を行うなど、積極的に施設及び事業のPRを実施している。
入館者数は、H27年度より増加傾向にある。立山黒部アルペンルートにおける台湾や中国などを中心とした外国人観光客の増加と連動しているものである。
一方収入は、H28年度より県内の文化施設について、高齢者(70才以上)や多子世帯に対し利用料が減免されるようになったことなどから、収入額が大きく減少した。
R2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、入館者数及び利用料収入ともに大幅に減少した。

(2) サービス向上に向けた取組み

- ① 開館時間の拡大(通常9時30分開館)
GW、夏季(夏休み)期間は8時30分、秋の行楽シーズン9時としている。
- ② 休館日の返上(通常休館日)
夏休み期間は休館日を設けず、全日開館した。
- ③ 移動博物館
積極的に館外へ出向き、講座等を通して、博物館のPRを行い、来館者の拡大を図っている。
- ④ 展示室等の多言語対応
外国人観光客の増加に対応するため、H28年度から映像ホールにおける3D映像の外国語音声レシーバーの貸出しや、常設展示室の外国語解説タブレットの貸出しを行っている。
- ⑤ H30年度からは、閑散期(12～3月)に「博物館講座(はじめてのぶらかんじき)」を開催している。
- ⑥ オンライン講習会の実施
例年3月に有観客で行っていた講演会をオンラインで実施した。

(3) 利用促進(収入増)に向けた取組み

- ・開館時間の拡大、休館日の臨時開館
- ・学芸課職員の学術研究の成果発表
- ・博物館ホームページやSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)による情報発信

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	実施期間：令和2年9月1日～10月25日 アンケート記入場所設置
回答者数	回答者数：385人
結果	満足：常設展示59%、企画展示80%、映像50%
結果を踏まえた改善事項	根気よく情報発信を、という意見があったため、SNSなどを中心により充実した内容を定期的に発信していくこととした。また、展示設営中の見学について要望があったため、事前に情報周知に努めたい。

② その他利用者の声を反映させる取組み

- ・博物館運営委員会の開催
- ・受付監視をおこなっているミュージアムガイドへの聞き取り

③ 主な苦情と対応

特になし

(5) 個人情報保護の取組み

個人情報保護規程を定めて職員に周知を図り、適正に個人情報を取り扱っている。

(6) 関係団体との連携

地元宿泊施設や地元鉄道会社、立山町と協力し、事業のPRを積極的に行っている。

(7) 施設・設備の維持管理

専門保守業者による保守点検とは別に、職員による自主点検を毎月行うなど、適正に管理されている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

「立山カルデラ砂防体験学習会」安全対策会議を開催し、安全対策及び緊急事態発生時の対応について関係機関との連携を行う等、非常時のマニュアルや連絡表を作成するとともに、防災訓練の実施や各種機器の点検なども着実に実施されている。

10 所管課の管理運営確認状況

	有/無	回数(有の場合)
①定期報告の受理	有	12
②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認	有	10
③個人情報に関するトラブルの有無	無	—
④危機管理・安全管理上のトラブルの有無	無	—

【トラブルの具体的内容と対応】

無

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

近年、立山を訪れる外国人観光客の増加が顕著に見られるため、H28年度から3D映像の外国語音声レシーバー及び常設展示室の外国語解説タブレットの貸し出しを行っている。加えて、H30年度からは立山駅からの誘導看板(外国語表記付)を設置した。引き続き外国人観光客の対応の充実、満足度の高いサービスの提供に努める必要がある。

また、来館者アンケート結果を見ると、はじめて来館した人の割合が高く(8割)、リピーターが少ないことから、来館者のニーズ(満足度を上げるために何が必要か)をより詳細に把握・分析するとともに、理事会等でも提案があったように閑散期の来館者増加も課題であった。そこでH30年度より閑散期対策として野外講座「はじめてのぶらかんじき」を実施している。今後とも広報活動(特にSNSを利用した情報発信)、イベント等の実施検討等に努める必要がある。

ウィズコロナ時代の博物館のあり方を模索しながら、開館30周年に向け、サービス提供の充実や館に直接足を運んでもらうための工夫が必要である。

今後とも、経費削減を念頭に業務内容を再点検するとともに、来館者や関係団体からの意見を反映させ、利用者の満足度が高まるよう努めてもらいたい。